

第30巻・第9号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和57年9月1日（毎月1回1日発行）

牧草園藝



自信をもってお奨めできる カーフハッチによる子牛育成

雪印種苗(株)中央研究農場 松 原 守

1. 設置場所と使い方

- 成牛舎など建物から離れていること。
- 風通しが良く、水はけの良い場所。
- 方向は入口付近の敷料に日光が当たるように南向きとする。
- 後部換気口は夏は開き、冬は閉じる。
- カーフハッチ内での飼育は60日間で、その後は開放式群飼用ハッチ（スーパー・ハッチ）で6か月令まで飼育する。
- 連続して使わないで、使用後に消毒しひっくり返して1～2か月間日光にさらしておく。
- 設置場所は1回ごとに変えること。

2. 新生子牛の取扱いと飼料の給与

- 出来るだけ早く初乳を1～2回飲ませ、被毛が

乾き次第ハッチに移す。

- 初乳は7日間必ず給与する。

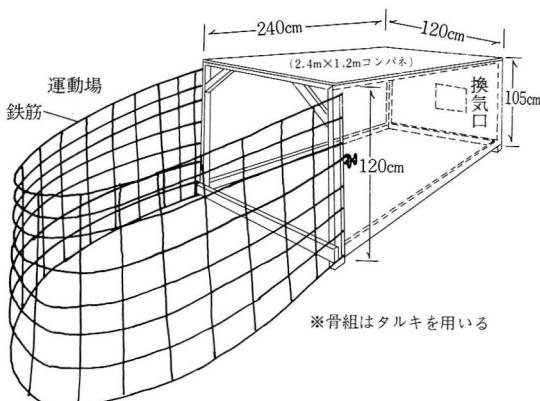
- 哺育飼料は通常と同じく、高栄養代用乳（ネオカーフミルク）と人工乳（カーフフード、カーフスター）を毎日所定量給与する。

- 水はきれいなものを常備し、冬の凍結地帯では飼料給与時にも必ず給与する。

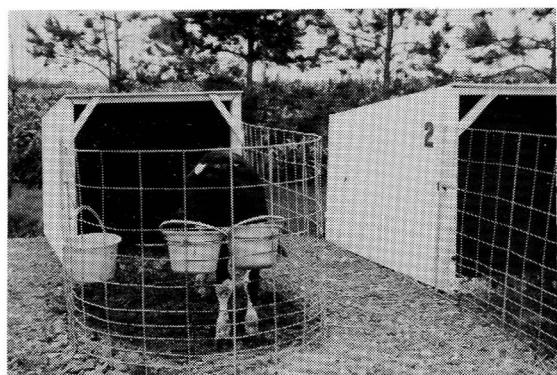
3. カーフハッチの作り方

コンパネ(120cm×240cm)と若干の木材を使って自家で作ると1頭分2～2.5万円で出来、運動場は鉄筋を用いて作ると5～6千円の材料代で済みます。作り方は図のとおりで、運動場にエサや水を入れるバケツ掛けをつけると便利です。

(写真参照)



カーフハッチ（自家製）の見取図



衛生的なカーフハッチで健康な子牛育成